

平成29年度 全日本私立幼稚園連合会  
第32回 東北地区教員研修大会  
〈宮城大会〉  
第一次ご案内

平成29年1月

東北各県私立幼稚園・認定こども園  
設置者・園長・教職員 各位

一般社団法人 宮城県私立幼稚園連合会  
理事長 村山十五

早春の候、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

東日本大震災は、宮城県内にも甚大な被害をもたらしました。とりわけ沿岸部の地域では津波により多くの土地や家屋そして命が奪われ、いつも存在しているはずだったものが目の前から消え去ってしまいました。あのとき、自らも被災者でありながら園児たちの命と心を必死に守ろうとしていた先生方の姿が思い出されます。6年が経過し、それぞれの地域で穏やかに過ごせる日を迎えられるようになりましたが、人口の流出や居住区整備など被災地としての課題も残されています。

そんな中で開催される研修大会。その思いを込めて「こどもがまんなかの教育・保育を考えよう」という大会テーマにいたしました。

日頃の実践を通して幼児教育の重要性を再認識するとともに参加者の資質向上の一端となる事を願い10園の公開保育と分科会を企画いたしました。

多くの先生方に参加して頂きたくご案内申し上げます。

# 開 催 要 項

1. 主 催 一般財団法人私学研修福祉会
2. 協 力 全日本私立幼稚園連合会、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、  
全日本私立幼稚園連合会東北地区会
3. 実 施 一般社団法人宮城県私立幼稚園連合会
4. 後 援 宮城県、宮城県教育委員会、塩竈市、塩竈市教育委員会、  
多賀城市、多賀城市教育委員会、七ヶ浜町、七ヶ浜町教育委員会、  
利府町、利府町教育委員会（予定）
5. 期 日 平成29年9月1日(金)・9月2日(土)
6. 会 場 公開園及び分科会  
多賀城高崎幼稚園、塩釜ひまわり幼稚園、利府幼稚園、  
利府聖光幼稚園、利府おおぞら幼稚園、塩釜第二中央幼稚園、  
東北学院幼稚園、八幡花園幼稚園、  
認定こども園多賀城東幼稚園・あずま保育園、  
認定こども園遠山幼稚園・遠山保育園  
  
全体会 多賀城市文化センター
7. 大会テーマ 「こどもがまんなかの教育・保育を考えよう」

## 8. 日程と内容

|              | 9:00 | 9:30        | 10:30 | 12:00 | 13:00         | 16:00             | 16:30 | 17:30 | 18:00 | 19:30 | 20:00 |  |
|--------------|------|-------------|-------|-------|---------------|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| 8月31日<br>(木) |      |             |       |       |               | 分科会打ち合わせ<br>運営委員会 | 夕食会   |       |       |       |       |  |
| 9月1日<br>(金)  | 受付   | 公開保育        |       | 昼食    | 分科会<br>(研究討議) | 移動                | 懇親会   |       |       |       |       |  |
| 9月2日<br>(土)  | 受付   | 式典・<br>記念行事 | 講演    | 閉会    |               |                   |       |       |       |       |       |  |

## 9. 記念講演

講 師：東京大学大学院教育学研究科教授 遠藤利彦先生  
演 題：未 定

## 10. 公開園・分科会

(敬称略)

| 分科会 | 分科会テーマ<br>～研究主題～   | 公開園<br>(分科会会場)                                | 指導助言者   |
|-----|--|---|---|
| 1   | 公開保育コーディネーター養成講座<br>子どもの主体性を伸ばす実践の在り方<br>～一人ひとりが伸び伸びと表現するためには～ | 多賀城高崎幼稚園                                      | (公財)全日本私立幼稚園<br>幼児教育研究機構研究研修委員<br>大通幼稚園<br>理事長 藪 淳一 |
| 2   | 幼児の健康な心と体を育む<br>～「環境」を生かした遊びを通して～                              | 塩釜ひまわり幼稚園                                     | 青木幼児教育研究所<br>立正大学大学院<br>非常勤講師 平山 許江                 |
| 3   | 豊かな心と体を育む<br>～絵本や歌を通して言葉や感性を<br>豊かにするための環境を考える～                | 利府幼稚園   | 山形大学地域教育文化学部<br>地域教育文化学科<br>准教授 野口 徹                |
| 4   | 子どもの主体性を育む保育実践を考える<br>～遊びの環境構成や援助の工夫を通して～                      | 利府聖光幼稚園                                       | 宮城学院女子大学教育学部<br>教育学科 児童教育専攻<br>特任教授 渡辺 徹            |
| 5   | 「やさしさ」と「思いやり」を育てる保育<br>～たてわり活動を通して～                            | 利府おおぞら幼稚園<br>(利府町公民館・<br>十符の里プラザ)             | 宮城学院女子大学教育学部<br>教育学科 幼児教育専攻<br>教授 磯部 裕子             |
| 6   | 子どもの心を引きつける保育を目指して<br>～クラス活動において<br>興味・関心を高めるためには～             | 塩釜第二中央幼稚園                                     | 聖和学園短期大学<br>保育学科<br>教授 小野 真喜子                       |
| 7   | 心豊かな子どもを育むための保育<br>～自由遊びの中で育つ<br>主体性・社会性を考える～                  | 東北学院幼稚園<br>(東北学院大学工学部)                        | 尚綱学院大学総合人間科学部<br>子ども学科<br>教授 東 義也                   |
| 8   | 食べる力を育む保育<br>～栽培を通して作物の生長や<br>収穫の喜びを知るために～                     | 八幡花園幼稚園                                       | 東北福祉大学教育学部<br>教育学科<br>教授 畠山 英子                      |
| 9   | 異年齢交流と心の育ち<br>～認定こども園における子ども主体の<br>異年齢交流を深めるための環境を考える～         | 認定こども園<br>多賀城東幼稚園・<br>あずま保育園<br>(浮島会館)        | 仙台青葉学院短期大学<br>こども学科<br>准教授 小野瀬 剛志                   |
| 10  | 【免許状更新講習】<br>保育の計画と実践・評価について<br>～教育・保育の良さを考える～                 | 認定こども園<br>遠山幼稚園・遠山保育園<br>午後<br>ホテルキャッスルプラザ多賀城 | 岩手県立大学社会福祉学部<br>人間福祉学科<br>准教授 井上 孝之                 |

第1～9分科会 (公開保育・研究協議)

第10分科会 (公開保育・免許状更新講習)

## 大会主題

# こどもがまんなかの教育・保育を考えよう

---

### 〈大会主題設定の理由〉

子ども・子育て支援新制度が始まり、それぞれの園の保育形態や環境は多様化していますが、子どもの姿や、教育・保育の質の充実を図ることはこれからも変わらないと思います。子どもは、愛されて育つこと、自分が「じぶん」であっていいという感覚を持って生きていく権利を有しています。子ども一人ひとりの良さを支えていく存在の保育者は、子どもにとって良質な教育や保育を保障することが最大の使命です。私たちは、子どものより良い育ちを願い、真摯に子ども達と向き合いたいと考えています。今、その思いを込めて『こどもがまんなかの教育・保育を考えよう』と提案いたします。これまで保育者の「質の向上」のために園内研修や地区研修、宮私幼の研修会で同僚性を高める学びなどの研修をすすめてまいりました。さらに今回の公開保育の実践を通して、参加される皆様と共に考え、共感しながら子ども達にとって質の良い教育・保育を探りたいと思います。

# 研究の手引き

## 第1分科会

多賀城高崎幼稚園（多賀城市城南二丁目21-1）

### 研究主題

子どもの主体性を伸ばす実践の在り方  
～一人ひとりが伸び伸びと表現するためには～

### 主題の捉え方

本園では、仏教の教えをもとにカリキュラムを作成し、保育を行っている。日々の生活の中で友達と協力し合い自主的に活動に取り組む姿が見られるが、自ら目的を持って今ある環境を生かし、創意工夫する経験が不足しているため、主体的に遊びを深めることが難しい。

本来、主体性とは、遊びや行事の経験を通し、自らの目的に向かって、考え、工夫し取り組む姿と捉えたとき、さまざまな経験の中で見える子どもの様子から、教師が発達や目的に合った援助やそれに応じた環境構成をどのように設定すれば、自分で気づき、考える力を身に付けることができるようになるのかを、学年ごとの実践を通し、研究していきたい。

### 研究の手がかり

- ① 研究主題や学年ごとのねらいに沿った研修計画を立てる。
- ② 計画に沿った保育活動を行い、記録をとる。
- ③ 学年ごとにファシリテーターを導入した話し合いを行う。
- ④ 話し合いで見えてきたことを用紙にまとめ、他の学年と情報共有をする。
- ⑤ 定期的に学年ごとの取り組みについて報告する。

## 第2分科会

塩釜ひまわり幼稚園（塩竈市字伊保石234）

### 研究主題

幼児の健康な心と体を育む  
～「環境」を生かした遊びを通して～

### 主題の捉え方

「健康な心と体」は生涯にわたり健全な生活を営むための基盤で、幼児期にその基礎を培う。

幼児が活発に遊び豊かに活動するために、家庭と連携しながら育まれるもので、幼稚園の果たす役割は大きい。今回の研究では、幼児の「健康な心と体」を育むために、幼児期にふさわしい発達を促し健やかな成長のために必要な経験をする場として望ましい『環境』の構成を課題とする。園の『環境』を再確認し、バランスの良い構成になっているか、また『環境』の生かし方等を考え、幼児の“遊び”を研究する。そして、『環境』が与える子どもの成長への影響はどのようなものになるのかをいろいろな場面で検証したい。人と関わる力を養う“遊び”は心を育て、積極的に体を動かし、自発的に“遊ぶ”ことは体を育てる。幼児の“遊び”が広がり充実する『環境』を意識し研究を進める。

### 研究の手がかり

- ① 今ある身近な「環境」をスポットごとに
  - ・ 現在、幼児がどう遊んでいるか、遊びに取り入れているかを検証する。
  - ・ 今後、その環境をどう生かしてみたいか、生かせるかを検証する。
- ② 幼児の“遊び”の姿を理解し、“遊び”の中から培う、幼児の心や体の発達を研究する。
- ③ 家庭と連携し、「健康な心と体」を育むために今できること、今後なすべきこと、を共に考える。
- ④ 幼稚園教諭としてのより質の高い専門性を養えるよう、研究内容をファシリテーションで園内研修し研究を深める。

|  |                        |
|--|------------------------|
| 第3分科会  | 利府幼稚園（宮城郡利府町花園一丁目13-2） |
| <p style="text-align: center;"><b>研究主題</b></p> <p style="text-align: center;"><b>豊かな心と体を育む</b></p> <p style="text-align: center;">～絵本や歌を通して言葉や感性を豊かにするための環境を考える～</p>   |                        |
| <p><u>主題の捉え方</u></p> <p>幼児期における発達著しく、日々の充実した生活により、内面である情緒が安定してくると色々な遊びに興味を持てるようになる。また友達と関わりたいという欲求も自然と出てくるものである。しかし言葉の習得は、日常生活でコミュニケーションを通して自然に出る傾向もあるが、大人・保育者の促しや日々の環境の中から得られるものと考えられる。</p> <p>幼稚園教育の中で、様々な遊びや体験、イメージを通しての言葉の習得や自己を表現する楽しさを味わう機会を設けることはとても大切だと思う。そのためには、発達年齢に応じた適切な言葉の刺激を与えることが必要となる。同時に言葉で表現を楽しむことや感性を豊かにするには、情緒の安定が基盤となると考えられる。その点を踏まえ我が園では、5領域に入る「言葉」「表現」に着目し、自分らしさの表現ができるような環境構成を考えていきたい。</p> |                        |
| <p><u>研究の手がかり</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 幼児一人ひとりに対する保育者の理解や考えについて、意見を出し合い共通理解を図る。</li> <li>② 日々の保育で主体性を大切に受け止め、励ましや共感、直接的な援助をしていく。</li> <li>③ 歌や絵本を通して、幼児が想像力を膨らませていく姿に寄り添い、様々な方法で表現する力を育む活動や環境構成を考える。</li> </ol>  |                        |

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 第4分科会   | 利府聖光幼稚園（宮城郡利府町加瀬字南野中沢29） |
| <p style="text-align: center;"><b>研究主題</b></p> <p style="text-align: center;"><b>子どもの主体性を育む保育実践を考える</b></p> <p style="text-align: center;">～遊びの環境構成や援助の工夫を通して～</p>  |                          |
| <p><u>主題の捉え方</u></p> <p>子どもの生活は遊びそのものです。</p> <p>日々成長を見せる子どもたちの遊びは、輝く探究心と豊かな創造性を生かした十分な活動量によって、充実し満足したものであることが大切です。</p> <p>そのために保育者は、遊びの素材（環境）や取り巻く集団の中で、一人ひとりの遊びにおける様々な反応を注視し、適切な働きかけ（援助）をすることが求められます。すなわち、遊びの場を共有し見守る中で、その時々状況に応じた手助けをし、励まし共感する援助が大事になります。</p> <p>このことを踏まえて、日々の保育実践の中から、子どもの意志や判断のもとに活動する姿の記録を持ち寄り、共に振り返り検討を重ねるならば、より内容の濃い保育を目指すことができるとともに、保育者集団の質をも高められると期待します。</p> |                          |
| <p><u>研究の手がかり</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 遊びの素材（環境）や人との関わりの中で子どもの豊かな遊びの姿を記録する。</li> <li>② サブテーマの視点から、定期的な実践記録を分析・検討を重ね、子どもの主体的な遊びや行動について共通理解する。</li> <li>③ 環境構成や保育者の援助の効果について考察してまとめる。</li> </ol>  |                          |

|         |   |
|---------|---|
| 第5分科会   | 利府おおぞら幼稚園（宮城郡利府町菅谷字赤萱31-2）  |
| 研究主題    | 「やさしさ」と「思いやり」を育てる保育<br>～たてわり活動を通して～   |
| 主題の捉え方  | <p>豊かな人間性は、いろいろな人との交流により深まっていく。幼児期はこれから人間として成長する上での「心・技・体」の根っこを作る極めて重要な時期といえる。本園では開園以来「遊ぶことを通して心身の調和のとれた発達の基礎を身に付ける」ことを保育の中心においてきた。開園当初より、通常のクラス保育と共に学年の枠を取り払った3, 4, 5歳児混合グループでのたてわり活動も導入し、集団の活性化を図りながら保育全体に変化と潤いをつけてきた。今回公開という機会を得、従来行ってきた「たてわり活動」を「やさしさ」と「思いやり」に焦点を当てて見直し、改めてたてわり活動の必要性について考える機会にしたいとの思いから、このテーマを設定した。</p> <p>豊かな人間性の根幹をなす「やさしさ」と「思いやり」を子どもの望ましい姿として捉えなおし、3, 4, 5歳児のたてわり集団の中で、子ども達同士がどのように認め合い、助け合い、支え合っているかを検証し、その向上を目指すにはどのような環境構成が必要か等を中心に掘り下げていきたい。</p> |
| 研究の手がかり | <p>① たてわり活動ならではの環境の下で、どのような子どもの姿が育っているのかを検証し、それを「やさしさ」「思いやり」といった側面から捉え実態把握を行う。</p> <p>② ①で得られた実態をもとに、個々の育ちと合わせ、具体的な支援について考える。</p> <p>③ たてわり活動の中で、子どもが自発的に考えたり行動したりできるようになるためには、保育者がどのように関わって援助していけばよいかを考える。</p> <p>④ たてわり活動における各学年のねらいに着目し、それぞれの育ちについて検証するとともに、年長児のリーダーとしての育成を行う。</p>   |

|         |   |
|---------|---|
| 第6分科会   | 塩釜第二中央幼稚園（塩竈市芦畔町13-51）  |
| 研究主題    | 子どもの心を引きつける保育を目指して<br>～クラス活動において興味・関心を高めるためには～  |
| 主題の捉え方  | <p>日々の幼稚園生活を通して、明るく安全な環境の中、一人ひとりの特性に配慮しながら、報恩感謝を基とする関わりを持つこと、団体生活における正しい習慣や知識が身に付くよう助長し、豊かな心を育むことを基本方針として教育・保育を行っている。</p> <p>子どもにとって教師は、幼稚園生活の中で様々な影響をもたらす大きな存在であり、教師の声掛けや援助によって刺激を受け、充実感や満足感を味わうことが出来ると思われる。一人ひとりの子どもが、期待を持ち、興味・関心を高めて活動に取り組むためには、子どもの心を引きつけられるような教師の関わりが重要であると考えている。そこで、クラス活動における日々の保育を振り返り、子どものありのままの姿や思いを教師間で共有すると共に、子どもが意欲的に活動に取り組むための教師の関わりについて深めていきたい。</p> |
| 研究の手がかり | <p>① 研究主題について、教師間で共通理解を深める。</p> <p>② 園内研修で、田の字法を活用したファシリテーションを行い、日々の教育・保育を振り返る。また、振り返りから得た反省点や改善点を次の活動に活かせるように話し合う。</p> <p>③ クラス内活動において、子どもが活動に対する興味・関心を高め、意欲的に取り組めるような教師の関わりについて、実践を通して深めていく。</p> <p>④ 活動の経過を考察しポスターにまとめる。</p>   |

|   |  |
|---|--|
| 第7分科会   | 東北学院幼稚園 (多賀城市高崎三丁目7-7)   |
| 研究主題  | <p style="text-align: center;"><b>心豊かな子どもを育むための保育</b><br/>～自由遊びの中で育つ主体性・社会性を考える～</p> |
| <p><u>主題の捉え方</u></p> <p>心豊かな子どもとは、主体性・社会性を身につけ、人との関わりを求め、互いに尊重し合って生きていく力を持つ子どもと考える。しかし、現代の子どもを取り巻く環境は目に見える評価を求めるあまり、問題を解決する力、友達と協力すること、障害を乗り越える力などといった子どもの非認知能力の育ちを十分保障していないと思われる。</p> <p>園生活においては、遊びを通して試行錯誤する中で達成感や充実感を味わったり、友だちと楽しさや喜びを共有したり、協力し合うことの大切さを感じたり、時には失敗や挫折、衝突などのいわゆる目には見えない心の育ちがとても大切ではないかと思われる。</p> <p>そこで、子どもの「こんなあそびがしたい」「もっとこうしていきたい」という自らの活動を選べる自由遊びが大切であること、そしてその中で、保育者が一人ひとりの子どもに寄り添い、心の動きを丁寧に読み取り、何が育っているのかを捉え適切な援助をすることによって、心豊かな子どもが育まれるのではないかと考えた。</p> |  |
| <p><u>研究の手がかり</u></p> <p>① 子どもが自ら取り組んでいる自由遊びの記録から、一人ひとりの興味・関心を探る。</p> <p>② 友だちとのかかわりの中で、子どもの心の動きや一人ひとりの育ちを捉える。</p> <p>③ 自由遊びを充実・展開させるための環境構成を考える。</p>   |  |

|  |   |
|--|---|
| 第8分科会  | 八幡花園幼稚園 (多賀城市八幡字庚田54)   |
| 研究主題   | <p style="text-align: center;"><b>食べる力を育む保育</b><br/>～栽培を通して作物の生長や収穫の喜びを知るために～</p> |
| <p><u>主題の捉え方</u></p> <p>今日、「早寝早起き朝ごはん」の標語のように、人間として、生き物として生きていくために最も大切な行為である「食べること」が、ことさらに叫ばなければならない時代である。育ち盛りの子どもの中にもたくさんの好き嫌いがあつたり、朝食抜きで登園してきている幼児もいる。一方、世界至る所で食べ物が無く飢餓状態にあり、多くの餓死者が出ているのに我が国をはじめ先進国では膨大な食べ物が捨て去られている。</p> <p>そこで、栽培の経験がない保育者も含め、幼児と「食育」「食べること」の大切さを実感するために、自ら土作りをし、種をまき、肥料を与え、雑草を刈り、作物を収穫することによって共にその喜びを味わう。そして、自然の恵み、食べ物を作っている人たち、それを与えてくれる親たちに感謝する心を持ってもらいたい。</p> |   |
| <p><u>研究の手がかり</u></p> <p>① 隣接する自園の畑で保育者と幼児達は日常的に作物の生長の過程を身近なものとして観察する。</p> <p>② 畑は年少・年中は合同で使用するが、年長は小範囲に区画した中で一人一人が責任を持って作物を育てるようにする。</p> <p>③ 保育者と幼児は、作物を収穫した喜びを共に味わい、「食育」「食べもの」の大切さを実感し、改めて日々生きていくために最も大事であることを知る。</p>   |   |



研究主題

## 異年齢交流と心の育ち

～認定こども園における子ども主体の異年齢交流を深めるための環境を考える～

### 主題の捉え方

現在、子どもを取り巻く環境として、核家族化、少子化、地域交流の減少などがあげられる。そのため、園生活において乳幼児期にふさわしい体験や学びが得られるような環境の配慮が大切である。異年齢交流の中で育まれる、あこがれの気持ちや人を思いやる気持ち、すなわち心の育ちを援助していくことが子どもたちにとってのより良い人生の基礎、基盤につながる。あそびを通してかかわりを持ち、共に喜び、共に楽しみ、時に葛藤する体験が子どもたちの心の成長に重要だと考えた。

本園は、認定こども園として未満児を含む子どもが在園し、幅広い異年齢交流が行われている。しかし、そのかかわりは受動的であり、子どもたちを取り巻く環境に配慮が必要だと考えた。子どもの心の育ちに大切な“自発的、意欲的にかかわれる環境”とはどのような環境か。また、保育の質を高めると共に“教師の援助”はどうあるべきかを探る。

### 研究の手がかり

- ① 育って欲しい姿について改めて協議し、そのために子どもとどう向き合うか、子どもの心情を洞察するために何が必要か話し合う。
- ② 異年齢交流の意味を再認識し、子ども一人ひとりの状況や育ちを細かく捉えていく。
- ③ 日々の保育記録をもとに、あそびやかかわりについての具体的な事例を持ち寄り、教師間で共通理解を図る。
- ④ 子どもたちの興味・関心をふくらませ、異年齢のかかわりが充実していく環境を考える。
- ⑤ 異年齢交流を通して、それぞれの心の成長を受け止め、伸ばしていくための環境構成、教師のあり方を探る。



第10分科会

認定こども園 遠山幼稚園・遠山保育園

【免許状更新講習】

(宮城郡七ヶ浜町遠山一丁目1-29)

研究主題

保育の計画と実践・評価について  
～教育・保育の良さを考える～

本分科会は免許状更新講習として実施する予定です。詳細については、第二次案内でご確認下さい。

**選択領域 6 時間**

- (1) 開催日 平成29年9月1日(金)
- (2) 開催場所 講習Ⅰ：認定こども園 遠山幼稚園・遠山保育園  
講習Ⅱ：ホテルキャッスルプラザ多賀城
- (3) 日 程 9：00 ～ 9：20 受付  
9：30 ～ 12：00 講習Ⅰ（公開保育・保育協議）  
12：00 ～ 13：00 移動・昼食  
13：00 ～ 16：30 講習Ⅱ（グループワーク・講義・対象者のみ試験）
- (4) 内 容 保育の計画と実践・評価について
- (5) 講 師 岩手県立大学社会福祉学部 准教授 井上 孝之 先生
- (6) 定 員 70名
- (7) 受講料 3,000円  
※ 東北地区教員研修大会参加費4,000円は別途ご負担いただきます。
- (8) 申込方法 免許状更新講習を受講される方は、東北地区教員研修大会とは別に免許状更新講習の受講申し込みが必要となります。第二次案内に事前申込書用紙を同封致しますので、申し込み期限までに大会事務局までお申し込み下さい。定員70名に達し次第締めさせていただきます。  
受講料3,000円は、大会参加費4,000円とは別途にお振り込みいただくこととなりますのでご留意下さい。  
午後からの講習Ⅱの会場、ホテルキャッスルプラザ多賀城へは、シャトルバスで移動します。

## ファシリテートの手法を取り入れた研究討議について

私たち幼児教育に携わる者にとって公開保育は、保育実践の場面を直接みて学ぶことのできる素晴らしい機会です。公開園にとっても自園の保育を公開することで、参加者の様々な視点を導入することによって自園の良さや課題を明らかにすることは、保育の質の向上を目指すこととなります。私たち東北の地で、全国的にも数少なくなってきた「公開保育」を取り入れた研究大会が継続していることはたいへん誇らしいことです。

幼児期の教育については、教育基本法第11条において「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」とされており、さらに幼保連携型認定こども園について規定している『就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律、第1条』においても、「乳幼児期における教育及び保育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と規定されています。このように幼児教育に対する社会的要請をみれば、保育の「質」が、私たちが取り組むべき「課題」のキーワードと捉えることができます。

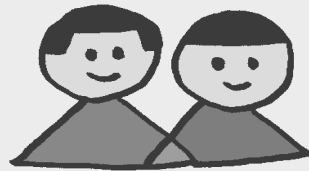
「質」の定義については様々な議論もありますが、子ども達に直接関わる私たちにとっては日々の保育の中で、教師が一人で質の向上をめざすことには限界があります。また一人の視点で幼児理解に取り組むよりも、同じ保育の専門家としての立場を持つ、仲間と共に建設的に話し合いを深めることで、新たな発見が得られることもあります。公開保育を実践する園にとっても、当日の保育を中心に参加者が感じた園の良さ、参加者が疑問に感じたこと、自園で課題と考えている点について、お互いに意見交換することにより、公開園にとっては、園の良さや改善の方向性を明るくすることになり、参加者にとっても様々な視点に触れることで、自らの保育を振り返るなど学びが深まるのではと思います。

この度の大会では、すべての分科会で公開園の保育を中心に、ファシリテーションを活用したグループディスカッションにより課題を共有しながら、参加者が、「実践者」のつもりで、積極的に学び合える「場」にしたいと思っております。

何卒、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

＊事務局より＊

1. 第一次案内は、一般社団法人宮城県私立幼稚園  
連合会ホームページに掲載しております。
2. 参加申込書等は、第二次案内に同封します。



こどもが  
まんなか  
PROJECT

---

---

平成29年度全日本私立幼稚園連合会  
第32回東北地区教員研修大会〈宮城大会〉

大会事務局

〒980-0803

仙台市青葉区国分町三丁目6番12号 佐正第二ビル6階

一般社団法人 宮城県私立幼稚園連合会

TEL 022-263-7040 FAX 022-263-7925

<http://www.miyashiyo.or.jp/>

---

---